

参議院選挙における合区の解消について

四国部会提出
説明担当 四万十市

地方における喫緊の重要課題である急激な人口減少に歯どめをかけ、大都市への過度な一極集中を是正するため、地方創生への本格的な取り組みが急務であり、地方の活性化を図るためには、さまざまな状況に置かれた各地域の声を、直接、国政に反映させることのできる仕組みが極めて重要である。

「一票の格差」を是正するとして、去年7月、憲政史上初の合区による参議院選挙が実施されたが、都道府県の代表となる議員を選出できない県が生じたことは、投票率の低下や広範囲にわたる選挙活動の困難さ、有権者が直接候補者の政見に接する機会の減少など、合区を起因とした多くの弊害が顕在化しており、合区解消を求める声は大きなものとなっている。

地方創生を実現し、地方の活性化を図るためには、当事者である地方の意見が国において最大限に生かされることが極めて重要であり、人口によって単純に区割りを決定する合区は、人口の少ない地方の切り捨てにつながり、地方創生にも逆行するものである。

今後の参議院選挙制度の抜本的な見直しに当たっては、国と地方が一層連携を強め、地方創生を推進していくためにも、単に人口の多寡にかかわらず、地方の多様な意見を十分国政に反映できる、地方創生にふさわしい仕組みを構築すべきであり、早急に合区を解消し、都道府県単位による代表が国政に参加することが可能な選挙制度とするよう強く要望する。